



小林 大樹

KOBAYASHI Daiski

NTTアクセスサービスシステム研究所
シビルシステムプロジェクト

国 土交通省より地下埋設物の埋設基準の緩和が発表される等、無電柱化の更なる推進を背景に最近の地下埋設物に関する世の中の動向は非常に活発になっています。今後は通信工事においても特集されたような効率的かつ高精度に地下埋設物を探査する技術のニーズは高まっていくと考えられます。

紹介されていた車載型地中レーダ技術や3次元可視化を容易にする高精度ポジショニング地中レーダ技術は効率・精度の両面で優れた地下探査

技術であり、非常に興味深い記事でした。今後は地下管路の調査にも適用範囲が広がると良い思いながら拝読しました。

これまで貴誌を拝読して、非開削技術全般においてレーダ測定技術や通信技術等の他分野の技術を組み合わせることにより、優れた新技術が生み出されている事例が多いように感じています。これら関連分野の技術解説記事を掲載していただくと読者の理解が更に深まる良い誌面になると思っております。



森井 雅人

MORI Masato

大日本土木(株)
土木本部土木営業部

建 設会社の事務系の人間として、感想を述べさせていただきます。

今回の96号に限りませんが、目で直接確認することのできない地中を、また、都市・住宅地など厳しい環境の中で、多くの技術者の創意工夫によって、安全性と施工品質を確保しながら、非開削で探査・施工する技術を進歩発展させていく姿を、敬服しながら毎号拝見させていただいています。

技術者のための機関誌ではありますが、「知って得する身近なScience」「会員談話室」などの記

事は、技術者でない私でも楽しく読むことができ、歴史好きのため「知ってますか・技術のあれこれ」は毎号の楽しみとなっています。今後も幅広い内容の掲載を続けていただきたいと願っています。



広田 健一

HIROTA Kenichi

日本シビックコンサルタント(株)
事業統括本部地下施設設計部

今 号の特集は、「地上からの調査・探査・診断技術」であり、私にとってはあまり馴染みのない分野の記事でした。地中レーダー探査が主流であろう、と予想はできたものの、その技術は様々であり、さらには宇宙線を利用した技術まで紹介されており、土木分野の応用範囲の広さを再認識しました。

私が大学時代に衛星写真から断層を発見することに挑戦していた時、その研究が医師の目に留まり、内視鏡検査の方向に発展していったことを思

い出しました。

土木というと、どうしてもハードのイメージがあり、ソフト面での情報技術は劣っていると思われるがちですが、応用範囲の広い土木だからこそ、情報技術においても汎用性の高いものが多いのではと考えています。

我々若い世代が分野の垣根を越えて活発な意見交換を行い、既存の技術にとらわれない自由な発想を持つことが、土木の発展につながると思います。